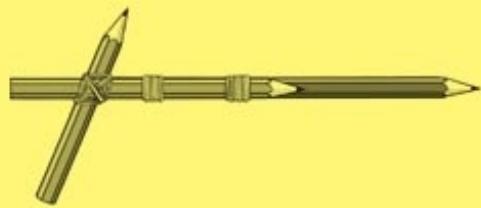


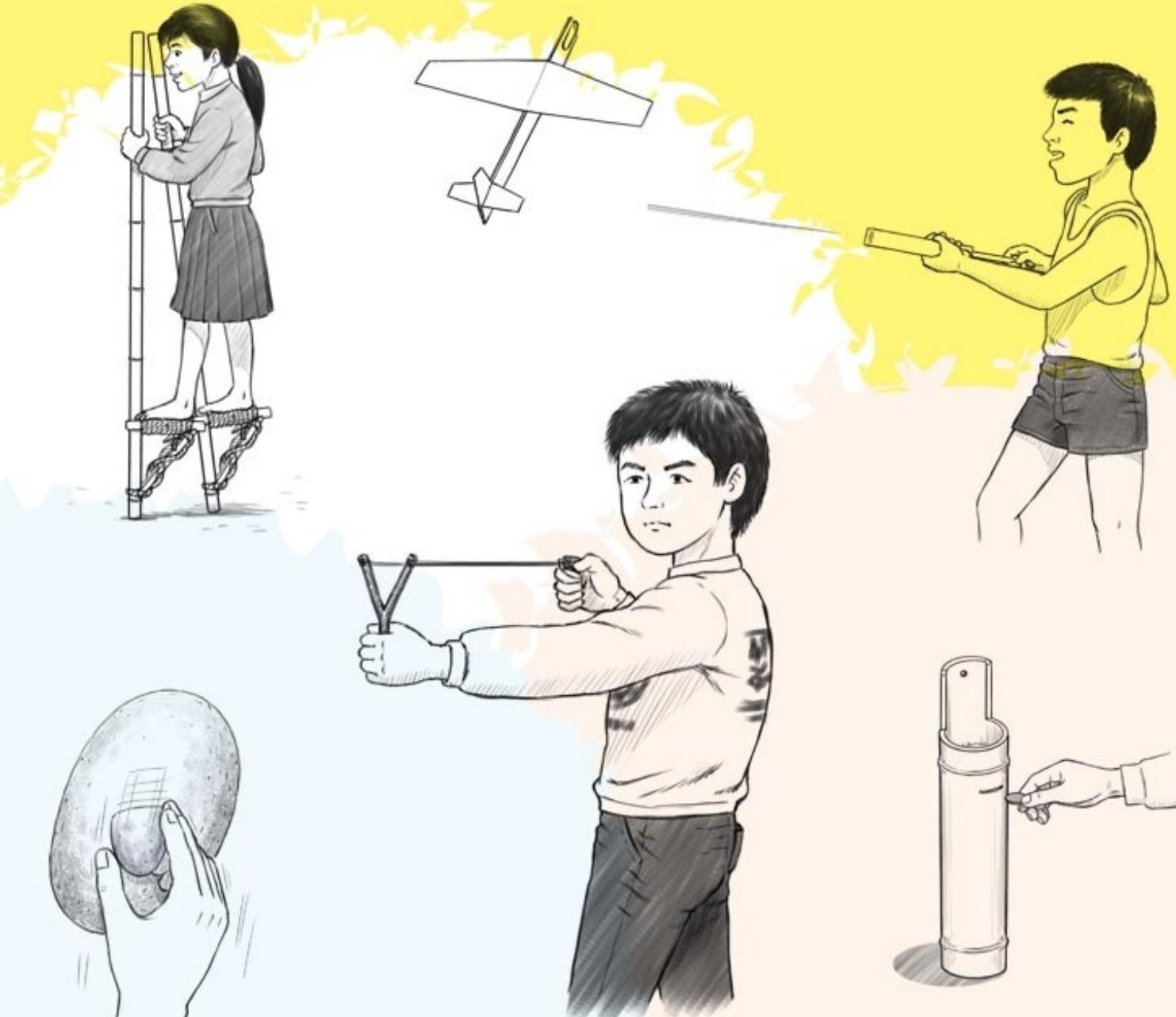
昭和



子供の遊び図鑑

第②卷

手作り遊び PART 2



手作り遊び

PART 2

目次

竹てっぽう	・・・	2
水てっぽう	・・・	4
空き缶馬	・・・	6
パチンコ(ゴム銃)	・・・	8
輪ゴム銃	・・・	10
石器作り	・・・	11
空き缶円盤	・・・	12
空き缶手裏剣	・・・	13
鳥寄せ笛	・・・	14
はがきグライダー	・・・	16
竹馬	・・・	18
竹の貯金箱	・・・	21

いろいろなものを材料にし、手作りする遊びです。形のないものから何かを作り出すおもしろさと、出来上がったもので遊ぶ二つのおもしろさがあります。昔の子供の、遊びの基本といえるでしょう。

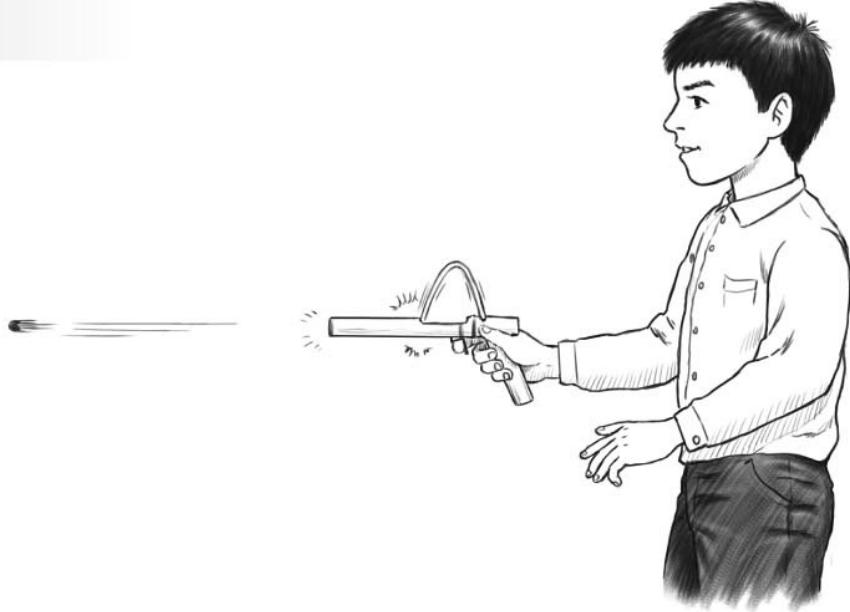
手作り遊び PART1 の続きになります。内容に連続性はないので、このパートだけでも読めます。PART1 およびこの後に続く続編を読むと、さらに楽しく読めます。

このパートでは、竹を材料にした手作りおもちゃを中心に紹介しています。他に空き缶を利用したものと、それなりの道具を使う工作がテーマになっています。たいていの道具をここで使うことになります。

竹てっぽう

安全 ◎
おすすめ ◎
男の子向け ◎
女の子向け ○

材料：竹、釘、針金
道具：のこぎり、ナイフ



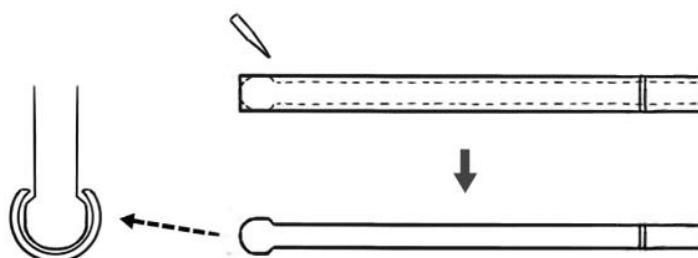
竹の弾力を利用して弾を飛ばすてっぽうです。小石やどんぐりなどの木の実を弾にして飛ばしますが、それほど力の強いものではないので、危険も少なく遊べます。パチンコと違い、飛んでもせいぜい5mくらいのものです。遠くの的はねらえませんが、縁日の射的のようなことにはちょうどいいでしょう。ひとつ欠点があって、転がりやすい弾を使うと前に傾けた時に、筒から弾が転がり落ちたり、はじいても力がうまく伝わらなかったりすることがあります。それもまたかわいげのある、なつかしいおもちゃです。

子供のなつかしい玩具として、あるいは観光地のお土産として売られています。基本の形はそれほどむずかしくないので、手作りに挑戦してみましょう。竹の弾力をいかに引き出すかがポイントになります。



直径が3cmほどの竹を図のように切れます。これがてっぽうの筒になります。

中ほどに1/4位の深さで竹を削り落とし、一節の1/2くらいの長さの溝を作ります。同時に、バネを差し込む穴を作ります。

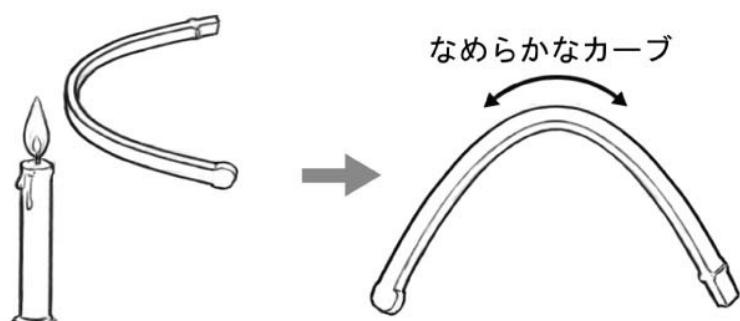


残った竹で、一節くらいの長さの2cm幅の板を作ります。

一方を丸く残して、他を2~3mm削り落とします。丸く残す部分は、筒に差し込んだ時、ひっかかる抜けないよう、内側の形に合わせて削ります。

これを真ん中から、くの字に曲げます。ろくな火であぶって曲げます。あぶったところが熱くなるので注意しましょう。なるべくゆるやかなカーブになるように曲げます。

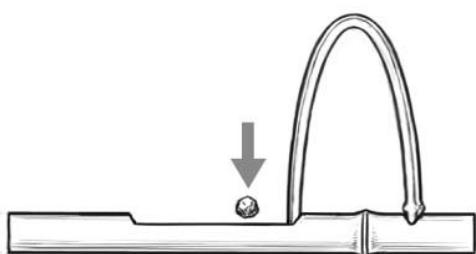
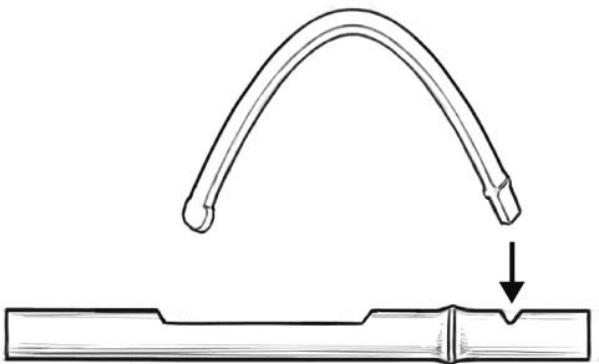
これが弾を飛ばすためのバネになります。



バネを取り付けます。

溝に入る方は丸く残した部分が入らないので、横向きにして入れます。もう一方を取り付け穴にしっかりとさし込めば、一通りの完成です。

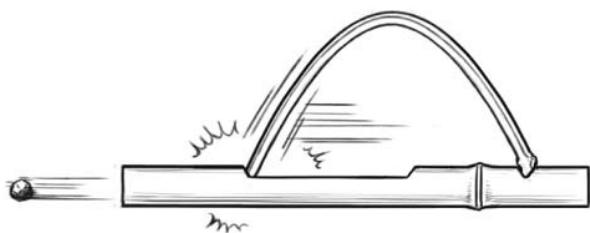
試しにはじいてみて、すべり具合を確認しましょう。すべりが悪ければ、削り直して付け直します。



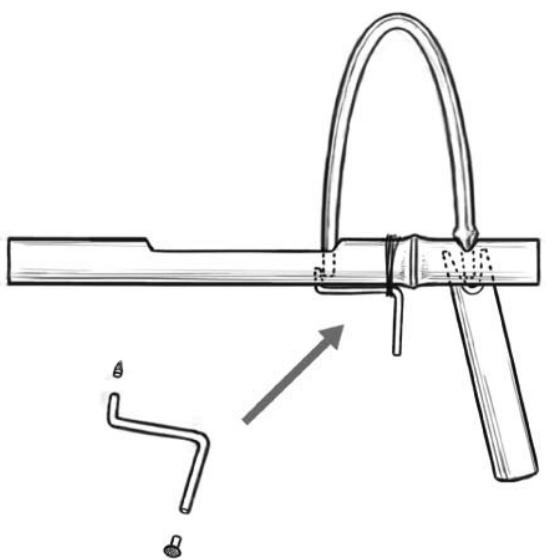
筒を片手に持ち、バネを手前に一杯に引いて弾を入れます。

弾は小石や、どんぐりなどの木の実を使います。

ねらいをつけたらバネを持った手を離します。バネが弾をはじき、竹筒の先から弾が飛び出します。



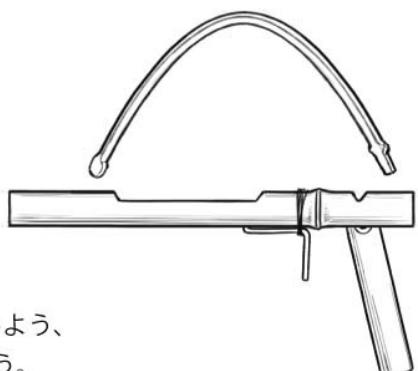
勢いよく遠くへ飛ばせるかどうかは、バネの出来具合で決まります。弱いバネだと、情けなくポトッと筒の先から落ちることになります。バネをいくつか作ってみて、いろいろ試すことも必要かもしれません。バネを曲げ過ぎてはいけません。



筒とバネだけの仕組みでは、なんとなくもの足りません。

図のように、竹で持ち手を付けたり、曲げた釘を引き金にすると、ピストルのような形になり、片手で撃つことができる、使いやすいものになります。

工作がちょっとむずかしいかもしれません、この最終形に挑戦してみましょう。



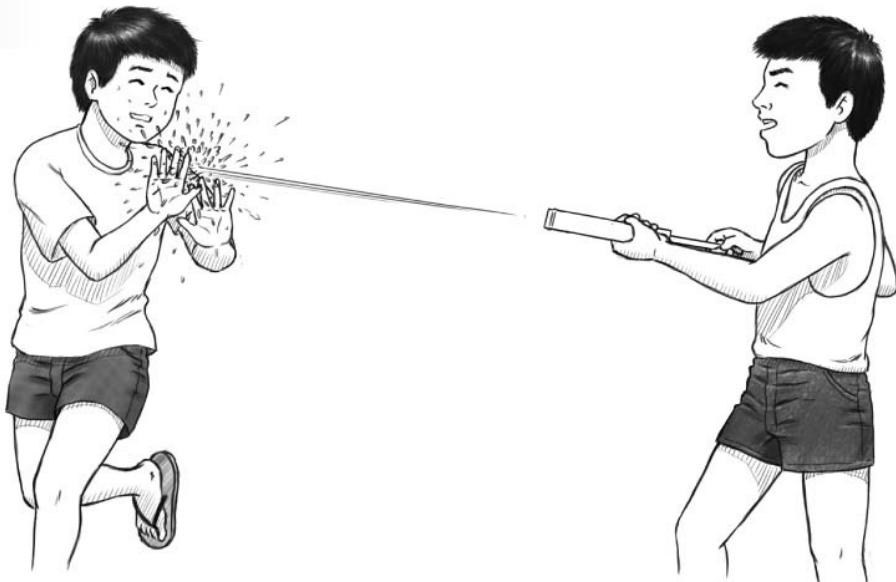
使わない時はバネが弱らないよう、竹のバネを外して保管しましょう。

注意：パチンコほどの威力はありませんが、目に当ると危険なので、人に向けて撃たないようにしましょう。

水てっぽう

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男の子向け ○
- 女の子向け ○

材料：竹、布、糸
道具：のこぎり、きり



竹で作る水鉄砲です。竹細工の中では比較的簡単に作れるおもちゃです。

暑い夏の時期に作って、みんなで打ち合いをしたり的当てをして遊びます。撃たれて水に当っても痛くないし、暑い盛りではかえって冷たい水が気持ちがよく、びしょぬれになるくらいの撃ち合いをしては、よく親に怒られたものでした。

大勢いれば敵味方に分かれて戦います。いかに遠くから相手に届かせることができるか、それが勝負の別れめです。十分な水を水鉄砲にたくわえ、エイヤッと思いつきり水を押し出します。一瞬の気合いとタイミングが大事でした。ミスをして相手に当らなければ、水がなくなった自分に駆け寄られ、すぐ近くからねらい撃ちされてしまいます。一度に水を使いきるか、2、3度に分けて水を使うか、その駆け引きもおもしろいものです。戦うには水の補給がなんといっても大切です。陣地にバケツや洗面器に水を張っておくのはもちろん、袋に入れてぶら下げ、持ち歩いて補給しました。補給中は相手にねらわれる危険があるので、仲間を援護したりもします。近年では、プラスチックの性能のいい連続発射できるものが売られていますが、当時の素朴な手作りおもちゃならではの、工夫とチームプレーといったところでしょう。

他には、いろいろな的をねらって飛ばします。立てた棒を倒したり、転がるボールを追いかけて撃ったり。新聞紙をぶら下げる穴が開くまで水を浴びせたりします。時には空中に張ったクモの巣めがけて発射し、クモを撃つといういたずらもしました。

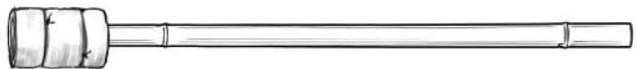
水鉄砲の作り方



直径4～5cmの竹を水鉄砲の筒にします。上の節を残し、一節の竹をノコギリで切り出します。それと、突き棒に直径2cmくらいの竹の棒を切り出します。長さは、筒よりこぶしの分長くなるようにします。

筒は、上の節にキリで1~2mmの穴を開けます。

この穴から水が飛び出しますが、あまり大きすぎると遠くへ飛ばなくなるので、始めは小さめの穴を開けておきます。



突き棒に布を巻きます。布を5cmくらいの幅に裂いて、突き棒の一方につくつ何重にも巻きます。水鉄砲の筒にちょうど入るくらいの太さに巻いたら、ほどけないように糸で巻いて留めます。巻いた布を筒に入れれば水鉄砲のできあがりです。

遊び方

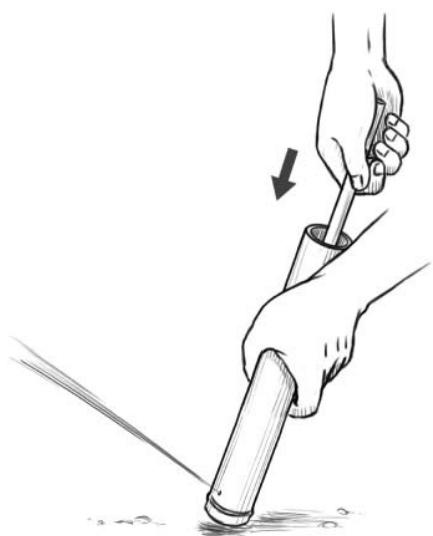


最初に、巻いた布を水でぬらします。巻いた布を筒の先までさし込みます。そして、水を張った洗面器やバケツに水鉄砲の先をつけ、突き棒をゆっくり引きます。すると筒の中に水が吸い上げられていきます。手元まで布が来たら吸い上げ完了です。

この時、巻いた布がゆるいとうまく水が吸い上がらないので、その時は布を足して太くします。



そして、水鉄砲の筒をしっかりと持ち、的に向けて突き棒を思い切りよく押します。すると節の穴から、細い糸のような水が勢いよく飛び出します。



変形バージョンで、筒の横から水が出るものもあります。筒の先端に穴を開けるのではなく、先端近くの横に開けます。筒を地面などに立て、上から強く突き棒を押し下げます。機動性はありませんが、普通のものより力強く遠くまで飛ばすことができます。

注意：当っても危険はありませんが、耳に水が入らないように注意します。水にぬれても寒くないよう、暖かい時期に遊びましょう。また、水にぬれては困る物の近くでは飛ばさないようにしましょう。

空き缶馬

安全	◎
おすすめ	◎
男の子向け	◎
女の子向け	○

材料：空き缶、ひも

道具：缶切り、ペンチ、かなづち



空き缶を利用して作る、竹馬のような遊び道具です。竹馬にくらべ、作るのも簡単で高さもないで、小さい子でも危険が少なく遊びやすいものでした。

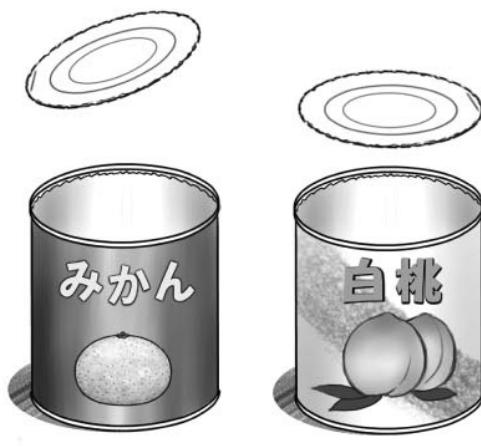
空き缶にわら縄を通した仕組みで、はだしでゲタをはくように乗って使います。縄をゲタの鼻緒のように足の指にはさみ、パカパカという感じの音を立てながら歩きます。竹馬よりずっと安定感があります。しかし、欠点が一つ。はだしで缶に乗ると、空き缶の縁の出っ張りが足の裏に食い込み、長く乗っていると痛くなることです。足の裏に、くっきりと丸い缶のあとも付きます。それを見せ合って喜んだり、どれくらい消えずに残っているか、ずっと観察したりもしました。

何足か作って、友達や兄弟と競争するのが楽しい遊び方でした。大勢で乗って走り回ると、缶で地面を引っかき回して土ぼこりがひどく舞い上がり、洗濯物が汚れるとお母さんにおこらることもあります。速く走るとくねって缶が横倒しになり、踏んづけてペシャンコになっておしまいということもあります。

空き缶馬の作り方

空き缶を2個、大きめで背の高いものがいいでしょう。2個とも同じ高さのものを用意します。

開けた時に残っているふたを、缶切りなどで完全に取り除きます。残したままだとつまづく原因になつて危ないので、残さないようにします。一方の底は残したままにします。



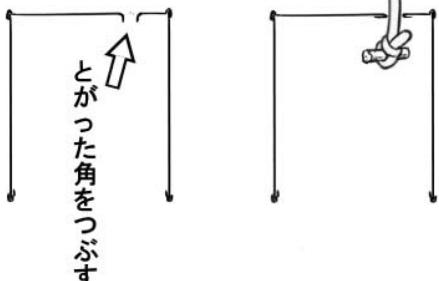
切り口のギザギザは、ペンチでつぶしておきます。作業中のけがの原因になったり、でき上がったものを手で持つ時、うっかりさわるとけがをすることがあるからです。





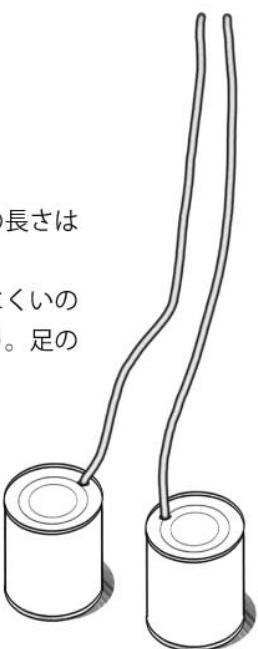
缶をさかさにし、底の片側にひもが通る、1~2cmの穴を開けます。開け方は、かなづちの反対側のとがった部分でたたいたり、先に釘で小さな穴を開け、それを少しづつ大きくしていくようにします。

穴にひもを通します。缶の内側でコブを作ったり、木切れを結んでひもが抜けないようにします。できれば、穴のギザギザを缶の内側から曲げてつぶすなどしておくとひもが切れにくくなり、作ったものが長持ちします。



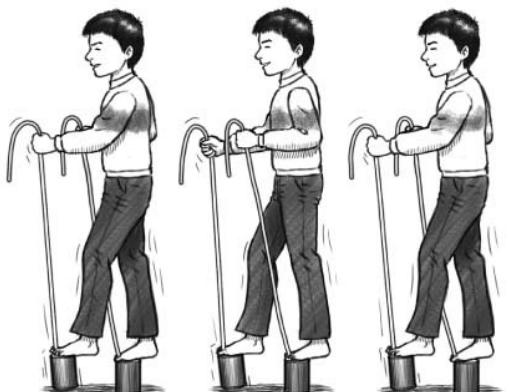
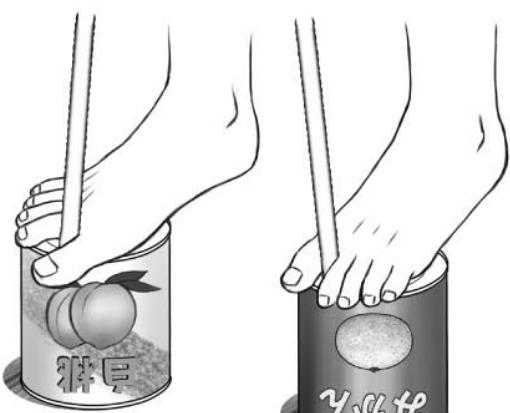
2つともひもを通したら、空き缶馬のできあがりです。ひもの長さは1mくらいでいいでしょう。

むかしはワラ縄を使いましたが、最近ではなかなか手に入りにくいので、ビニールひものより合わせたもので代用してもいいでしょう。足の指ではさむので、痛くならないやわらかいものがいいです。



遊び方

遊ぶ時は、はだしになります。前に缶を置き、ひもをピンとはりながら足の親指と人差し指でひもをはさみ、それぞれの缶に乘ります。



そして、どちらかのひもを引き上げながら、合わせて足を上げ、前に出します。1歩進んだら、反対を同じようにして動かし、さらに1歩前へ進みます。これを交互に繰り返し、前へ前へと進んでいきます。慣れると走るような速さで進むこともできるようになります。

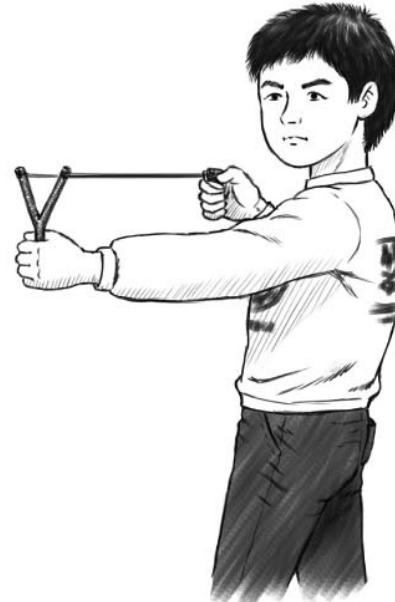
注意：はだしで遊ぶので、砂利など、とがった硬いもののないところで遊ぶようにしましょう。

パチンコ（ゴム銃）

安全	△
おすすめ	○
男の子向け	◎
女の子向け	△

材料：二股の木、ゴムひも、皮、糸

道具：のこぎり、ナイフ、きり



大人が遊ぶパチンコ屋さんのパチンコではなく、ゴムの力で石ころやどんぐりなどの玉を飛ばして遊ぶおもちゃです。私たちは「ゴム銃」と呼んでいました。おもちゃとはいっても、その作り方によっては非常に強力な武器に近いものになるので、目的をしっかり持って作るなり、遊ぶなりしなくてはなりません。

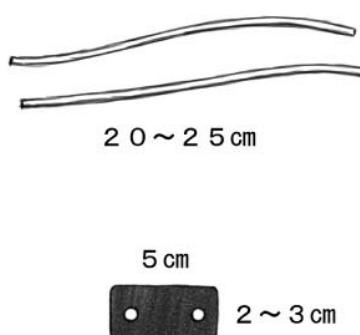
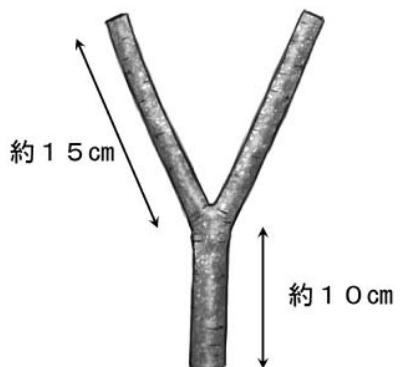
Y字形の二股の木を探すのが一番肝心なところです。たいていは森や林にでかけて探しますが、ちょうどいいものはなかなかないものです。でもそれを探し当てた時は、完成したも同然のうれしさがありました。桜の木や椎の木などが素直なY字の形になっていることが多く、また丈夫で強いパチンコにできました。作ったものをベルトに差し、遊びに出かけては道ばたの石ころを拾い、いろいろなものを的にして飛ばしたものです。木の幹をねらったり、竹林に撃ち込んで竹を鳴らしたりしました。広い河原で、投げるより遠くへ飛ぶ威力に満足を覚えたり、ビンを流してねらい撃ちしたりもしました。

時には近所の泥棒猫をねらったり、枝や電線に止まった鳥をねらったりもしました。一度、高い木に止まっていた雀を撃ち落としたことがあります。落ちた雀を捕まえ洗濯かごに入れておきましたが、目が粗かったのでいつの間にか逃げてしまいました。ちょっとかわいそうなことをしました。

現代では危険なおもちゃと言われる代表でしょう。遠ざけるだけでなく、大人の指導のもと、その危険も含めて使い方・遊び方を知る機会があってもいいと思います。

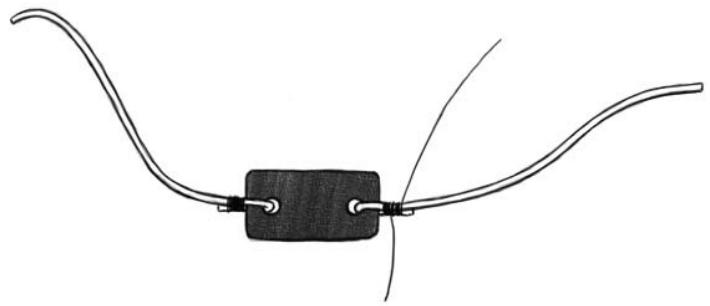
パチンコの作り方

木の枝をから、きれいなYの字形になっているものを探して切り出します。Y字の左右の枝を15cmくらい、持ち手になる柄の部分をを10cmくらいに切ります。

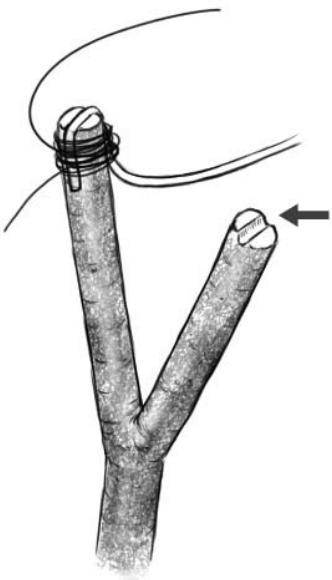


ゴムひもは、できれば1本で強いものを用意します。20～25cmくらいの長さを2本用意します。細いゴムを束ねて使ってもいいですが、切れると交換しにくくなります。ゴム管の細いものが手に入れば、それが最適です。

2×5cmくらいの皮の切れはしが必要です。両端に穴を開け、ゴムを通して引っ張るので、切れないと丈夫なものを用意します。ベルトの切れはしが最適です。他に、自転車のゴムチューブや布を何重かに重ねてぬい合わせたものでもいいでしょう。



皮の両端に、キリや穴を開けるパンチなどで穴を開けます。切れないよう、端に余裕を持たせて開けます。この穴にゴムを取り付けます。穴に通して2つに折り、重なったところを糸でグルグル巻きにし、ゴムが抜けないようしっかりとしばります。しばったところからゴムの端を1~2cmくらい残します。両方とも同じように取り付けます。



最後に、皮を付けたゴムを二又に取り付けます。二又の先端にみぞを作つておけば、ゴムをうまく固定できます。ゴムの長さは、左右同じで、皮がY字の又の付け根より少し下になるくらいにします。長すぎても短すぎても使いにくくなります。

ゴムをみぞに沿わせて、しっかりと糸で何重にも巻いてくくり付けます。



ゴムの長さが左右同じか確認しましょう。違うなら付け直します。両方とも取り付けて完成です。

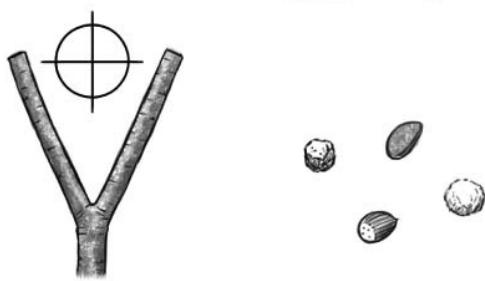
柄を持ち、皮をつまんで引っぱり、ゴムが抜けて外れなければOKです。

遊び方



遊び方は、一方の手で柄を持ちまっすぐ前に突き出します。玉を皮にはさんで持ち、強く後ろに引いてねらいを付けて、パッと手を離します。すると勢いよく、玉が前へ飛んでいきます。

玉には、石ころ、ドングリ、柿のたねなどをいました。



屋外では、木や大きな石や石垣などを的にしたり、広い場所で、どこまで飛ばせるか試します。空き缶やペットボトルなどを的にして、当てる競争をするとおもしろいでしょう。

丸めた紙の玉を使えば、家の中でも安全に遊べます。



注意：人に向けたり、家や物のある方向には飛ばさないようにしましょう。けがをしたり物をこわしたりします。また。犬や猫、鳥などをねらって撃つのもやめましょう。

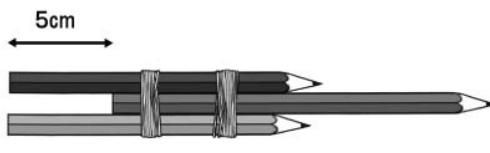
輪ゴム銃

- 安全 ○
- おすすめ ○
- 男の子向け ○
- 女の子向け ○

材料：輪ゴム、鉛筆

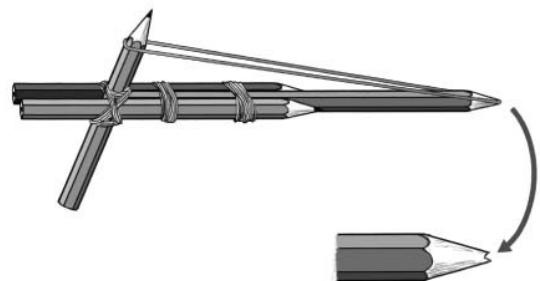


鉛筆を銃のように組み立て、輪ゴムを飛ばす遊びです。鉛筆と輪ゴムで簡単に作れるので、学校や家で作ってよく遊びました。引き金で輪ゴムを発射できるので、手で飛ばす方法よりもずっとねらいがつけやすく、威力のあるものが作れました。形が拳銃のようで男の子には人気でした。西部劇のガンマンのように、撃ち合いや決闘ごっこなどしたものです。机のかげにかくれ、撃ち合いをします。輪ゴムを何本も束にして用意し、すばやく次の玉を込めて撃つのが勝利のポイントでした。手持ちの輪ゴムがなくなても、相手が撃った輪ゴムを拾って使います。ただ、一方的に撃ちまくると、その輪ゴムもなくなって、逆に形成不利になります。鉛筆を4本使うので、授業中に鉛筆が足りなくなってしまったこともあります。せっかく作ったのに、こわして元に戻しました。



鉛筆は短いものを一本、長めのものを一本、中くらいのものを二本用意します。長めの鉛筆を中くらいの鉛筆2本ではさみ、うしろに5cmくらいのすき間ができるようにして、輪ゴムでしばります。そのすき間に、短い鉛筆を直角にはさみ、上に3cmくらい先を出して輪ゴムで止めます。

短い鉛筆に輪ゴムをかけ、同時に、引き金にもなります。



長い鉛筆は芯を折ります。芯に穴が出来るくらい深めに折るのがいいです。この穴に、つめで輪ゴムを引っかける溝を作ります。この溝に輪ゴムをかけて、短い鉛筆に引っかけます。

銃を的に向け、ねらいをつけて引き金を引きます。するとゴムが外れて前へ飛び出します。ねらいがつけやすい、使いやすい銃になります。鉛筆を長くつなぐとライフル銃のような、大きい、威力のあるものもできます。割りばしを材料に、同じような銃を作ることもできます。



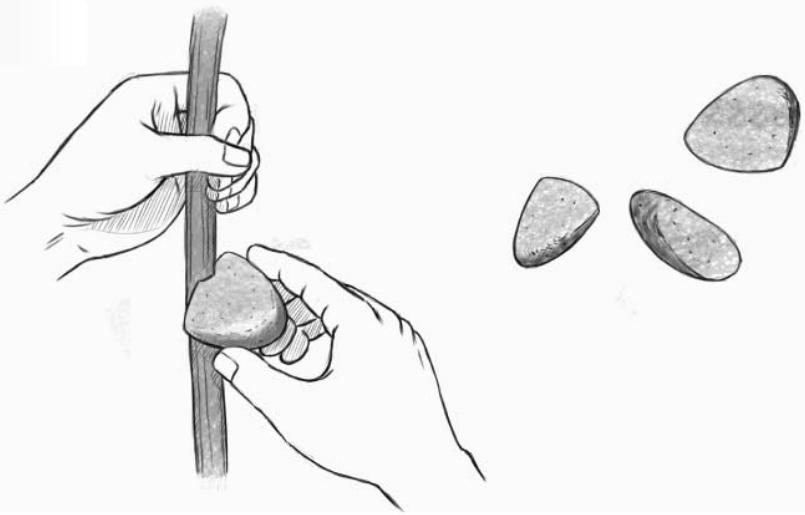
注意：体に当っても大して痛くありませんが、目に当ると危険なので、顔に向けて飛ばすのはやめましょう。

石器作り

- | | |
|-------|---|
| 安全 | ○ |
| おすすめ | ○ |
| 男の子向け | ○ |
| 女の子向け | △ |

材料：石、木の枝、つる

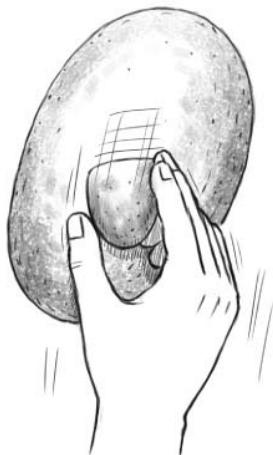
道具：石



石器時代のように、石器を自分たちで作っておもちゃにするというものです。

目指すは弥生時代のような磨製石器です。はじめから石器に近い形の石を拾い、それを加工して作ります。石を石でこすって磨きますが、かなり根気のいる作業になるので、大きいものは作れませんでした。遺跡から出土した石器は形も大きさも立派で、石器時代の人たちのすごさを思い知ることになりました。

細い枝や竹はなんとか切ることができました。切るというより、少し傷を付けたら折るという感じです。スイカや柿やキュウリなどはきれいに切れました。釣った魚をさばいたりするのにも使いました。ただ、石選びがむずかしく刃先が欠けやすいので、実用的な道具というより、原始人になった気分を味わうという感じの遊びでした。



河原で石を拾います。なるべく平たくて長細い石器に近い形のもの、また欠けにくい固い石を探します。あとはそれをひたすら磨いてとがらせます。他の石とこすり合わせてすり減らします。石器時代の人と同じ体験をするのが目的なので、砥石やヤスリを使ってはいけません。ヤスリは逆に、石に負けてしまう場合があります。よくばって大きな石を選ぶと、なかなか形にならず大変な思いをします。子供の力では、1辺が3cmくらいの小さな石が適当でしょう。

表面が固くてざらざらした、なるべく平らな石を砥石代わりにしてこすり合わせます。すり減り具合をみながら、相手の石をいろいろ変えてみましょう。形を整え、刃を両刃に磨きます。



鋭い刃にしたければ、最後だけ刃物用の砥石で磨き上げます。紙や細い木の枝くらいは切れます。うっかり手の皮を切ってしまうくらいのものになりました。

木の枝に草のつるでしばりつけると、見た目は本格的な石器の完成です。でも、これで何かをたたくとすぐに刃先が欠けてしまうでしょう。

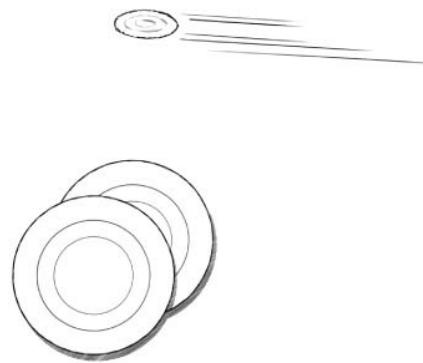


実際はたいして実用にはなりません。役立つ用途といえば、小さく薄く作って、ペーパーナイフにすることでしょう。筆箱の隅に入れておいて、学校で自慢げに見せたりしました。

空き缶円盤

安全 ○
おすすめ ○
男の子向け ○
女の子向け ○

材料：空き缶
道具：缶切り、ペンチ、かなづち

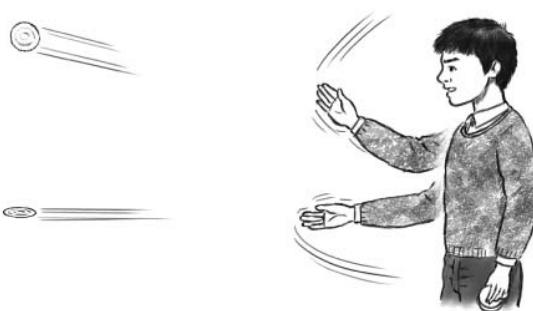
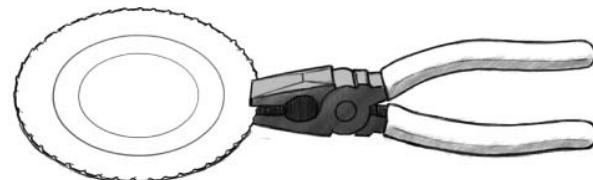


缶詰の空き缶を利用して作る円盤です。今のプルトップで開けるタイプの缶詰ではなく、缶切りで開ける昔ながらの缶詰が適しています。形は円形のものがいいでしょう。缶の上ふたと底で2枚の円盤ができます。

できた円盤を手裏剣のように投げたり、フリスビーのように投げます。どれくらいきれいに遠くに投げられるかを競ったり、耕す前の田んぼに投げて、刺さるのをおもしろがったりしました。草や木に向けて投げると、茎や葉っぱが切れるので、てごろな草むらを見つけてはみんなで投げつけでは、草をなぎ倒しました。スカンポやヒメジョオンなど、面白いよくなぎ倒すことができました。いかに缶の切り口をきれいに平にするかが、よく飛ぶ円盤にするコツでした。

食べ終わった空き缶をきれいに洗います。上ふたはすでに、8～9割を切ってあるので、残りを全部、本体から切り離します。底も同じように本体から切り離します。

円形の板ができるが、ふちがギザギザしているのでペンチではさんだり、かなづちで叩くなどして平らにします。特に上ふたは、本体とつながっていた部分に曲がりがあるので、念入りに延ばしましょう。きれいに延ばしたら、直径10～15cmの金属の円盤の完成です。



円盤を手のひらにのせ、親指で軽く押さえます。
遠くへ投げるには、耳のあたりまで振り上げ、前に振り出して投げます。水平に投げるには、おなかのあたりに手を置き、横に振り出して投げます。

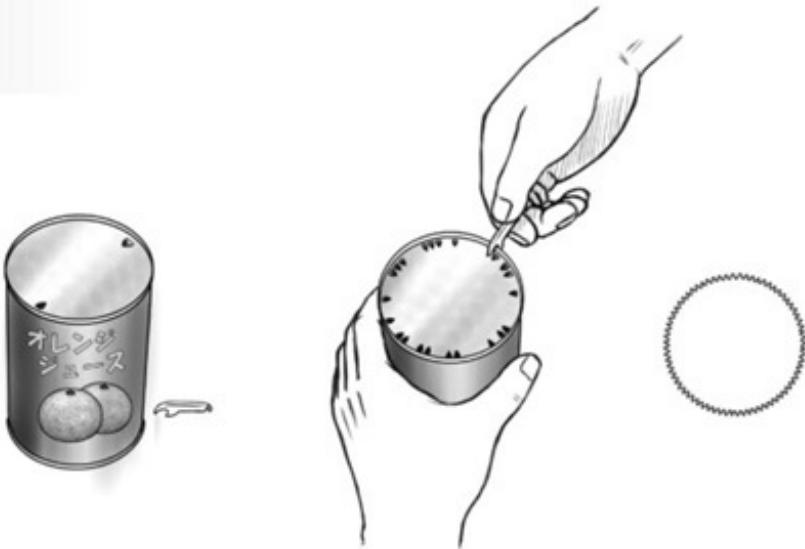
注意：当るとけがをしたり、物を傷つけたりするので、人のいない方向、物のない方向へ投げましょう。

空き缶手裏剣

安全	○
おすすめ	○
男の子向け	◎
女の子向け	△

材料：空き缶

道具：缶切り、ペンチ、かなづち、
金切りはさみ



昔の缶ジュースはプルトップではなく、穴を開けるための缶切りが付いていました。それで缶に2か所の穴を開けて、ジュースを飲んでいました。

この缶と缶切りを使って、おもちゃにしないはずがありません。飲み終わった缶を、開けた2か所の穴だけでなく、全体にすき間なく開けていきます。すると缶の板が、たくさんのギザギザの丸い板になります。この時、切り離しやすいように、隣の穴にくっつけて次の穴を開けるようにします。切り離すと、ギザギザの手裏剣になります。ギザギザは固く鋭いので、木に投げつけると本当に刺さって、本物の忍者になったような気がしたものです。底板も使うと1つの缶で2枚作ることができます。小型の手裏剣として活躍しました。

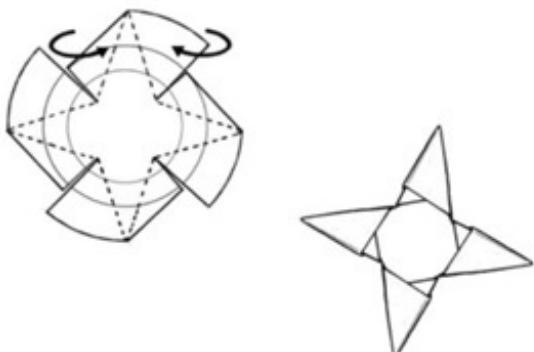


フルーツや魚の缶詰の空き缶も、同じように手裏剣にすることができました。缶のふたを切り抜いて円盤にしますが、これでは前項の空き缶円盤のままなので、さらにこれに手を加えます。

金切りハサミがあれば、十字や星型に切れます。なければ普通のハサミで切りましたが、使ったあと切れ味が悪くなるので、親に怒られるのを覚悟で切りました。

本格的な手裏剣になります。ジュースの空き缶より大きい立派なものになりました。

板がうすいので使っていると曲がってしまい、あまり長持ちしません。そこで、円盤に切れ目を入れ、折り曲げて手裏剣の形にしました。こちらは厚みも重さもあって、丈夫な手裏剣になります。しかし、先端をしっかりとがった形にしないと、刺さりにくいものになってしまいます。



注意：当たると危険なので、人のいる方向、物のある方向には絶対に投げないようにしましょう。

鳥寄せ笛

安全 ◎
おすすめ ◎
男の子向け ◎
女の子向け ○

材料：竹、木の枝、糸か輪ゴム

道具：のこぎり、小刀

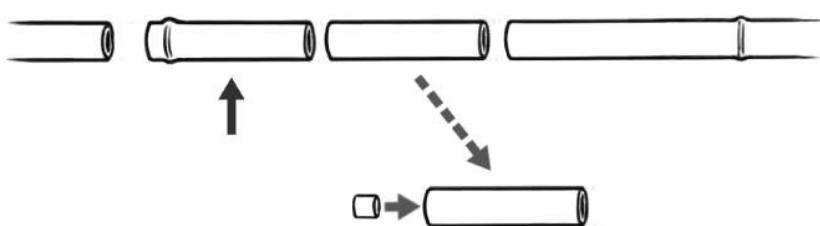


竹で作る、手のひらに乗るくらいの小さくかわいい笛です。竹の太さや切り方で音色は変わりますが、ピーッという高い音で鳴ります。子供にとってみれば少々むずかしい工作になりますが、作ってしまえば口にくわえて吹くだけで音を出すことができる、遊びやすい笛です。

うまく鳴る笛にするためには、いくつか作ってみることが必要かもしれません。切り込みの位置や深さなど、何度か作ってみて試して覚える経験の積み重ねが大切です。使う竹や木の枝の素材によっても勘どころが違ってきます。うまく鳴らなかつたり、逆に思ってもいらないようないい音が出たり、一喜一憂しながら作るのが楽しいものでした。せっかくいい音色が出来る笛にできても、生の竹や木を使うと乾燥して、微妙に変形したり、すき間が空いて音が変わったりします。その時は材料を組み替えたり、置き換えたりして直します。生の材料が柔らかくて作りやすいですが、しっかりしたものを作りたければ、加工しにくくても乾燥した材料を使うといいでしょう。子供には生の材料が使いやすく、結果いくつも作ることにつながり、竹細工により親しむことになりました。

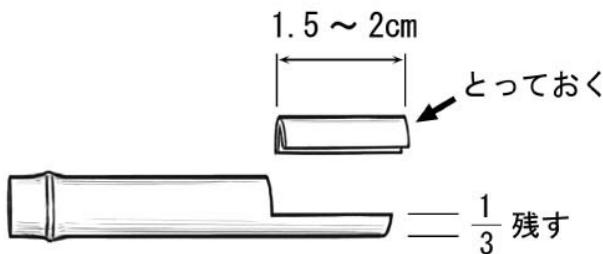
うまく作って鳥の鳴き声に近い音色が出れば、鳥寄せの笛に使うこともできます。

鳥寄せ笛の作り方



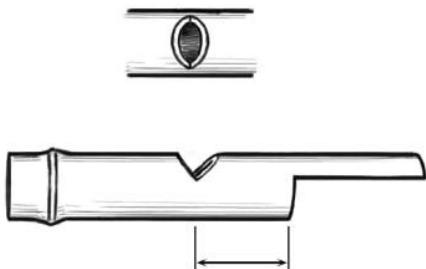
竹を節のすぐ上と、下側へ5～6cmのところで切れます。

一方が閉じていることが大事な点です。いくつも作る時には、節がない部分でも木を短く切って詰めれば使えます。



穴のある方から1.5～2cmくらいのところに、のこぎりで2/3まで切り込みを入れます。そして、切り込んだ深さに合わせて小刀で取りのぞき、1/3位を残します。

取りのぞいた部分も後で必要になるので、大事に取っておきます。



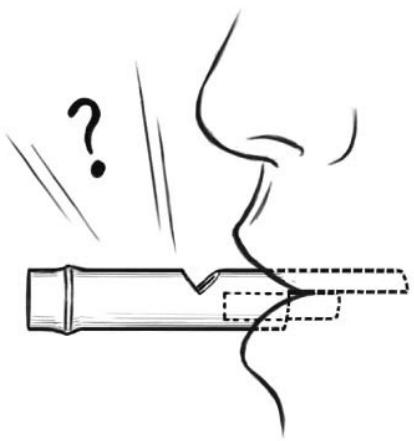
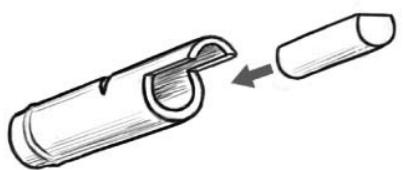
1.5cm の所をV字に切り込む

切り込んだところから1.5cmくらいのところに、小刀でV字形に切り込みを入れます。深さを竹の1/3くらいにします。切り込みは目に似た形の穴になりますが、この穴が息を吹いた時に、音を出す大事な穴になります。

次の作業で音が鳴るようになりますが、デリケートなので、ていねいに作業しましょう。

竹の穴に、すき間なくぴったりと入る木の棒を作ります。木の枝をていねいに削って、V字の穴の少し手前まで入るくらいにします。ややきつめの方がいいでしょう。長さは2cm位にします。側面を1/4くらい、平らに削ります。

そして、V字の穴の側に、削った面が来るよう差し込みます。この削った部分と竹とのすき間が、息が通る道になります。

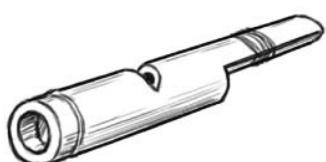
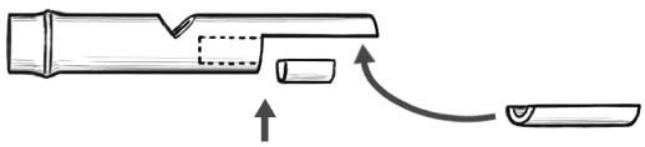


はじめは浅く差し込み、ためしに吹いてみます。音が出たらその音を覚えておきましょう。音が出ても出なくても、さらに少し棒を押し込みます。V字の切り込みより奥では音が出ないので、差し込み過ぎないようにします。そしてまた吹いてみます。

音が出るか出ないか、音はさっきよりいいか、悪いか…。何度もためして、音が出るところ、よりいい音の出るところを見きわめます。

一番いい音が出るところがわかったら、棒の余分な部分を切り離し、ぴったりの長さにします。確認のためもう一度吹いてみます。うまく音が出れば音色の調整は終わりです。

取っておいた竹を削り、本体に合わせて吹き口を作ります。最後に、糸か輪ゴムで結べばできあがりです。



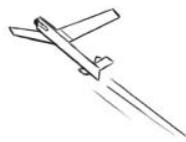
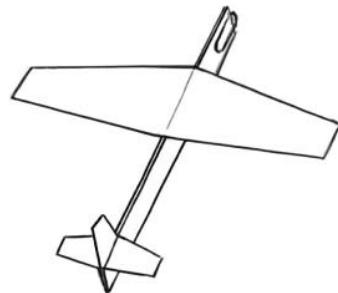
でき上がった笛を軽くわえて吹けば、ずっと鳴らしやすく、きれいな音が出ます。竹の太さや、切り込みを入れる場所の違いで音色も変わるので、いろいろな笛を作ってみるのもいいでしょう。鳥の鳴き声に近い音色になれば、鳥寄せの笛に使うこともできます。

注意：細かい細工をする時に、あやまって手を切らないように注意して作りましょう。

はがきグライダー

安全 ◎
おすすめ ◎
男の子向け ◎
女の子向け ○

材料：はがき、のり、ゼムクリップ
道具：はさみ、セロテープ



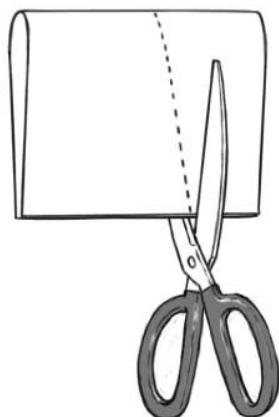
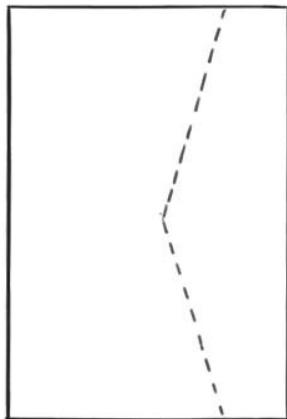
使用済みのはがきや、残った年賀はがきなどで作る手作りのグライダーです。絵はがきを使えばカラフルなことができます。正確な図面もいらず、3枚のパーツを切り出せばいいだけの、簡単な手作りグライダーです。小さい機体にちょうどいい紙の厚みがあるので、安定して飛びます。

およその目安で、厚みがさまざまなハガキを切って作るので、形は似ていても、いろんなバランスの飛行機ができます。その中で自分の独自のものをつかんで、より安定した形を見つけ出します。これはなかなかいいぞというものができた時、その作るおもしろさがわかります。

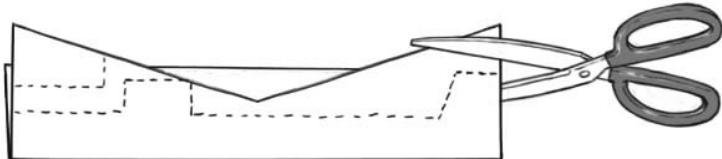
室内でも屋外でも遊べる飛行機です。小型なので、屋外では風の弱い時に飛ばすようにしましょう。よく飛ぶ機体なので、むしろ屋外で飛ばす方がよりおもしろいです。シンプルな作りながら、するすると滑るように、見事な滑空をします。精密な工作にくらべてもひけをとらない感じで、とても気持ちがいいものでした。

なかなか上手に作れない弟たちに作ってやったりしましたが、よくできると、なかなかそれをあげる気持ちになれず、また別のを作ってそれを渡したりしたものです。遊んでいると、あちこちにぶつかったり、土や水がついたり、思わず踏んづけて曲げてしまい、しだいに飛び方が悪くなったりします。大切に取っておこうにも、他のものと一緒にすると、やはり曲がってしまい、完成したときのまま保存できないはかなさもありました。

はがきグライダーの作り方



はがきを折り目がつかない程度に、軽く二つ折りにします。はがきの端を3cmくらい、折った側を4cmくらいの見当で、図のようにはさみで切り離します。広げると、これが主翼になります。

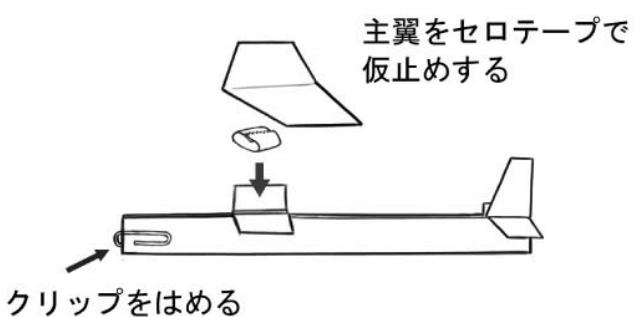


残った部分を、今度は縦に折ります。この時、切り落としてできたV字の真ん中あたりで、はがきのもう一方が重なるようにしてください。おおよその見当で、図のような形に胴体を切り出します。真ん中の出っ張りが主翼を貼り付けるのりしろ、うしろの出っ張りが水平尾翼になります。

余った部分から垂直尾翼も切り出します。

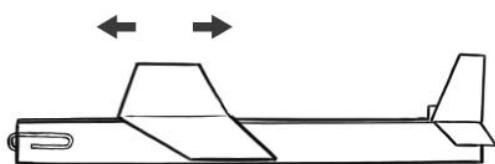
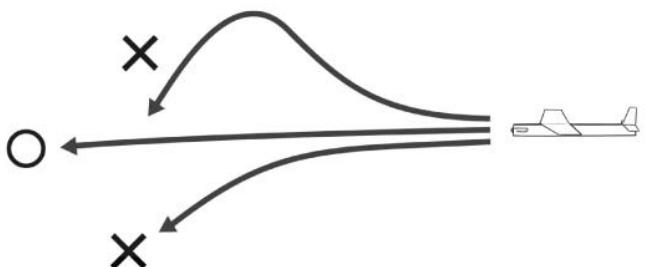


出っ張りを2か所とも両側へ直角に曲げ、胴体をのりで一つに貼り合わせます。
一緒に垂直尾翼も貼り合せます。



真ん中の出っ張りを曲げたところへ、主翼をセロテープで仮に貼り付けます。主翼はややV字形に曲げる方が安定してよく飛ぶ機体になります。

そして、機体の先端に、オモリになるゼムクリップをはさんで試しに飛ばしてみます。



主翼の位置で飛び方が変わります。×印のように飛ぶ時は、主翼の位置を前後に少しずらして調整し、○印のように飛ぶ位置を探します。

位置が定まったら、仮止めのテープをはずし、主翼をのりでしっかりと貼り付ければできあがりです。

主翼の位置を調整しのりで貼って固定する

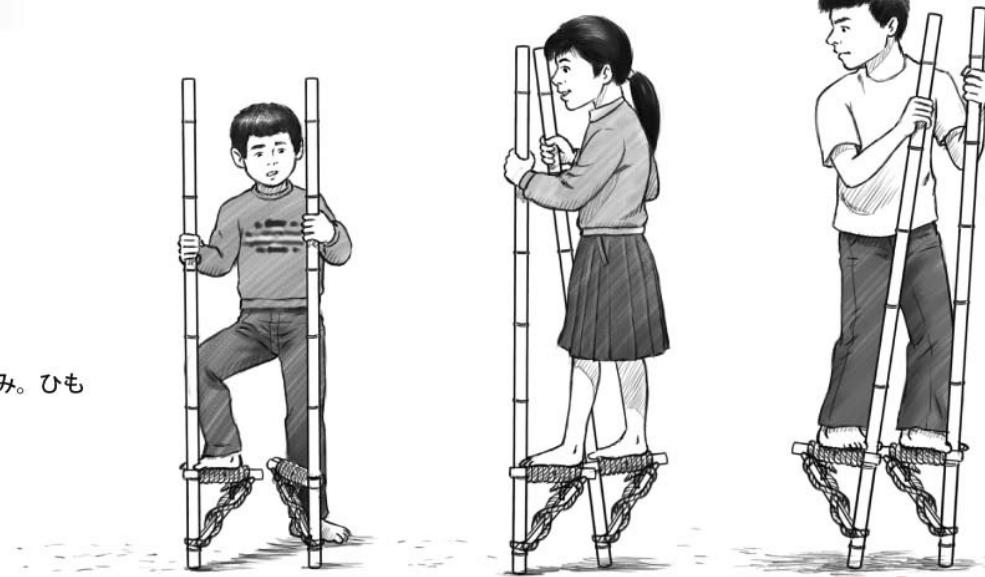
注意：大事な内容のはがきや未使用のはがきは使わないようにしましょう。

竹馬

- 安全 ○
おすすめ ○
男の子向け ○
女の子向け ○

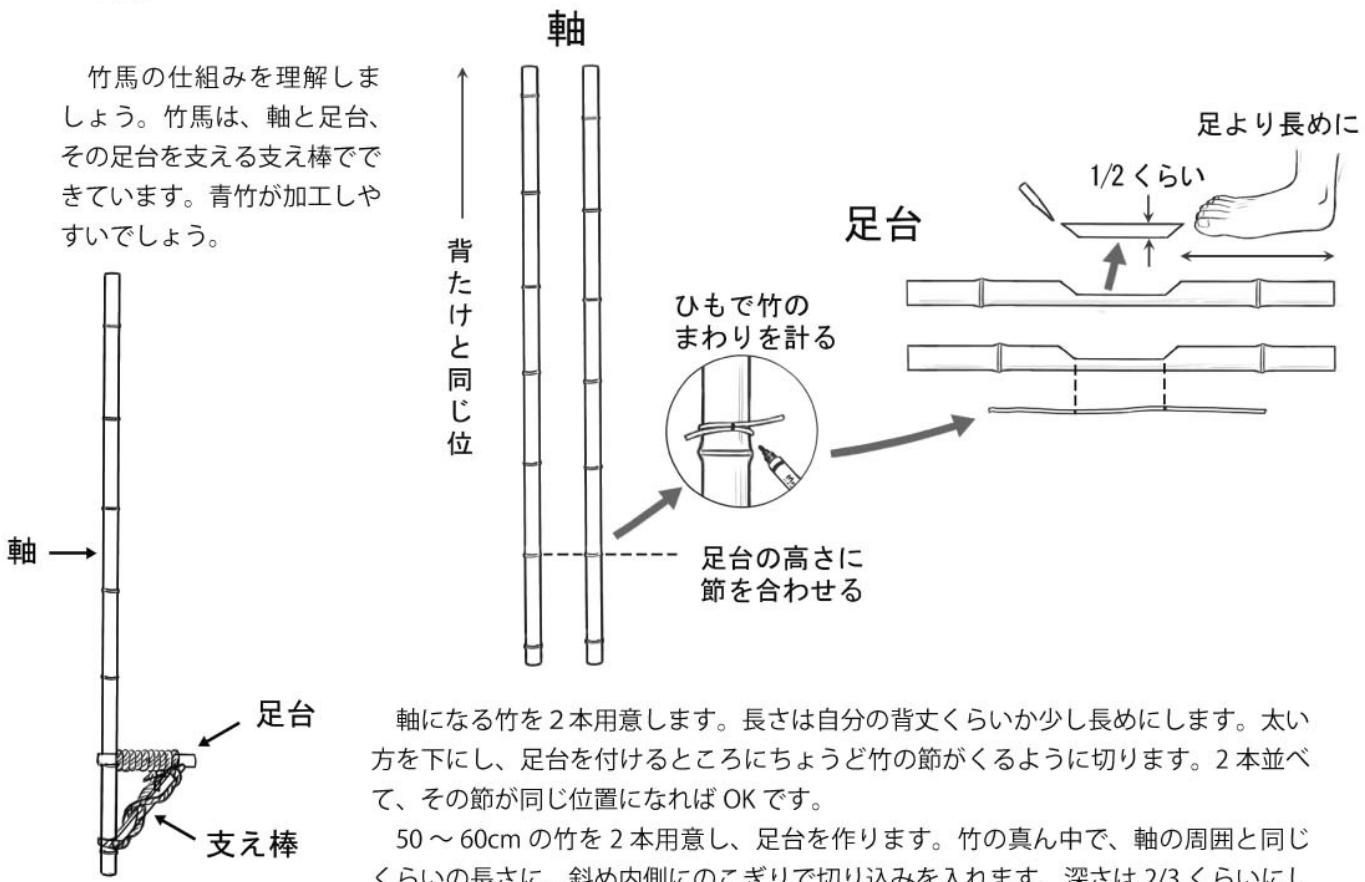
材料：竹、なわ

道具：のこぎり、ナタ、のみ。ひも



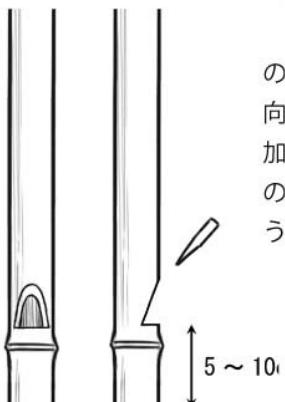
竹馬は、今も子供たちに遊ばれている遊び道具です。ただし、鉄やアルミやプラスチックで作られた、売られている玩具に大きく姿を変えています。昔はすべて手作りでした。子供だけですべてを手作りするのむずかしいので、大人が作ったり手を貸してくれたりしたものです。

一口に竹馬といっても、形や材料、作り方など、また地域や時代によっても多くのバリエーションがあります。しかし、いずれにも共通するのは、裸足で乗っても安全なことです。靴を履いて乗れば安全かもしれません、かえって足が外れやすく不安定で乗りにくいものです。足にピタッと吸い付くように、そして足の指で竹をはさみ、竹を鼻緒のように捕まえることで竹馬と一体になれるのです。乗るだけではなく、速く走ったり、どれだけ高い竹馬に乗れるかが腕の見せ所でした。

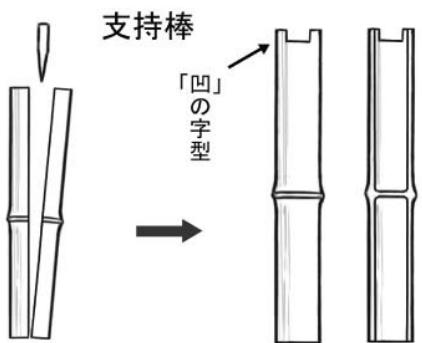


軸になる竹を2本用意します。長さは自分の背丈くらいか少し長めにします。太い方を下にし、足台を付けるところにちょうど竹の節がくるように切れます。2本並べて、その節が同じ位置になればOKです。

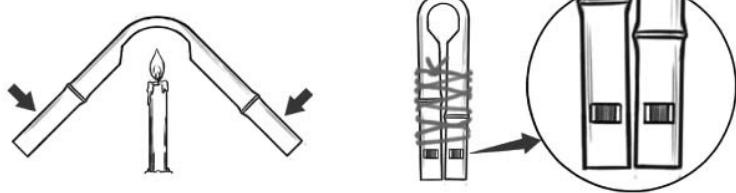
50～60cmの竹を2本用意し、足台を作ります。竹の真ん中で、軸の周囲と同じくらいの長さに、斜め内側にのこぎりで切り込みを入れます。深さは2/3くらいにします。軸の周囲はひもを一周させて計ります。切り込んだ部分はのみで取り除きます。



軸に、支え棒を受ける穴を開けます。軸は下から5~10cmのところに、のこぎりを浅く入れ、その切り込みに向けて斜めに竹を削ります。ナタでの加工がちょっとむずかしいので、大人の人にやってもらうのがいいでしょう。

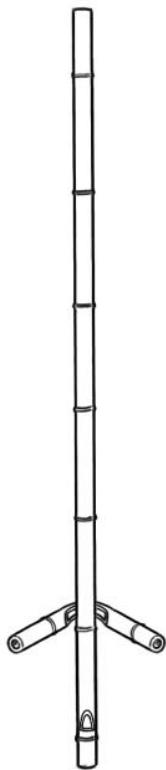


次に、支え棒を作ります。足台の高さより少し長いくらいが目安です。目安の長さに竹を切り、ナタで二つに割ります。そして一方の端をのこぎりなどで「凹」の字に加工します。もう一方はそのままにしておきます。



足台は端を揃えて二つに曲げます。曲がりにくいので、竹を火であぶります。そして、ひもで仮にしばって形を整えます。

端から3~5cmのところで、1cm位の幅の小さな窓を開けます。加工にはのこぎりとノミを使います。二つの窓ができるが、ここに支え棒の「凹」がはまります。

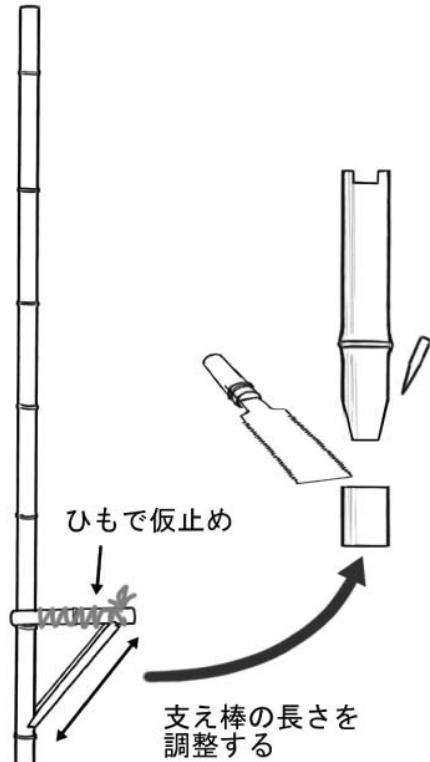


仮組みをします。足台のひもをほどき、取り付け位置で軸をはさんで合わせます。節よりゆるくてもかまいませんが、きついようなら削って調整します。

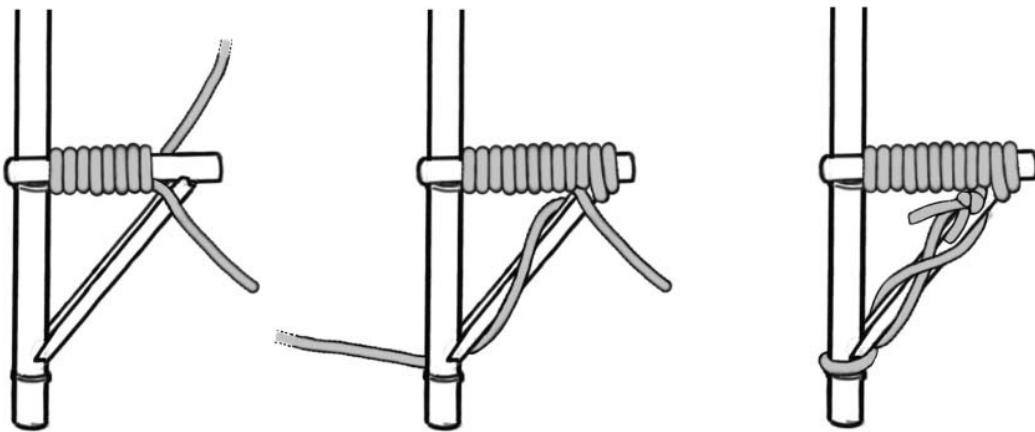
うまく合ったら、再びひもで仮にしばります。

足台を仮組したら、支え棒の長さ合わせをします。足台が直角になるか、少しかかとが高くなるくらいがいいでしょう。

足台に支え棒の「凹」を差し込み、軸の切り込みに合わせて印を付けます。



支え棒を、印を付けたところで切り落とします。そして、軸の切り込みに入る幅に、両側を切り落とします。こちらはなんなく「凸」の形になります。これで部品はそろいました。

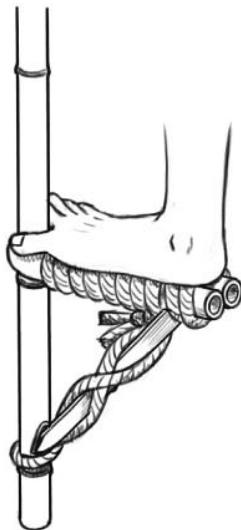


最終の組み立てをします。3つの部品を組み、ひもや縄でしばって完成になります。ひもや縄は一本で仕上げるときれいに仕上がるるので、長いものを用意します。

足台を付け根からぐるぐるにしばっていきます。端まで来たら、支え棒をはめ込み、軽く巻きつけて軸までまわします。軸も何回かぐるぐるに巻いて。また軽く支え棒に巻きつけて足台に戻します。ひもの端をしっかりと巻きとめれば、竹馬の完成です。

はだしで乗り、軸を足の親指と人差し指ではさむようにします。まずはうまくバランスをとって、立つ練習をしましょう。少し前にかたむける感じがバランスが取りやすいです。

立てるようになったら、どちらかの竹馬を持ち上げながら足を前に出し、交互に動かして前へ進むようにします。



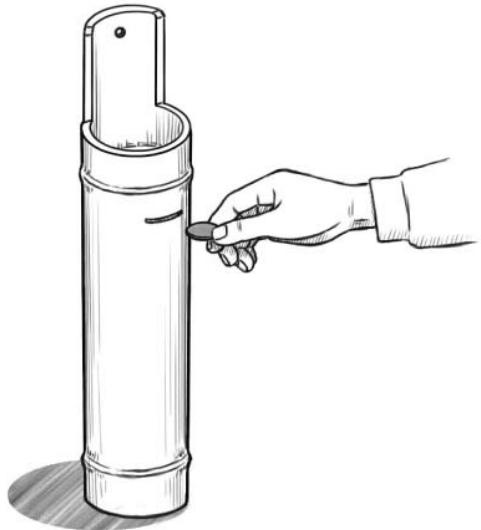
慣れれば、かなり速く、走るくらいの感じで進むことができるようになります。

注意：加工に力を使う道具があるので、作業中のけがに注意しましょう。また、ころぶと危険なので、無理な乗り方はしないようにしましょう。

竹の貯金箱

安全 ○
おすすめ ○
男の子向け ○
女の子向け ○

材料：真竹、孟宗竹
道具：ナイフ、のこぎり、きり、
かなづち

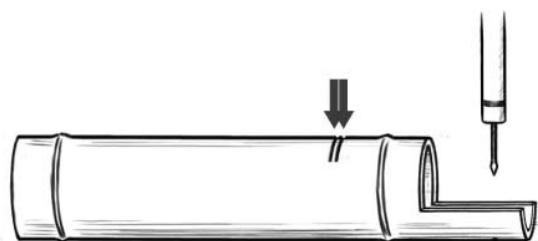


竹を材料に、簡単に作れる貯金箱です。材料にする竹は、真竹や孟宗竹など太目の竹にします。かなりのお金が貯まる貯金箱になりますが、子供なのでたいして貯まりませんでした。しかも、つまよう枝を使うとお金の投入口から、中のお金を取り出すことができたので、つい使ってしまって、いくらも貯まらなかつた思い出があります。子供のこづかいでは竹筒一杯に貯められるわけもないのに、家族で満杯を目指し、どれくらい貯まるかやってみるとおもしろいでしょう。



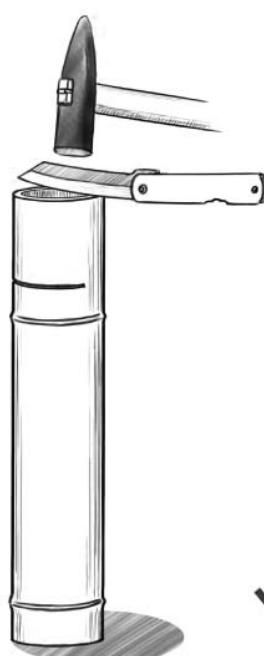
竹は一節と $1/3$ ほどを使います。節のすぐ上にのこぎりで切れ目を入れます。深さは竹の直径の $2/3$ くらいです。

切れ目に合わせて竹を割り、その部分を切り離します。竹にナイフなどをあて、かなづちでたたくと簡単に割れます。

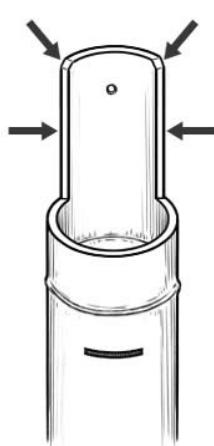


残った部分の真ん中にきりで穴をあけます。これが壁や柱に吊り下げるための穴になります。

そして、節から $2 \sim 3\text{cm}$ のところに、のこぎりで二本の切れ目を入れます。間隔は 3mm くらい、幅は 5cm くらいにします。



切れ目をナイフなどでこじるようにして取り除きます。ここが、硬貨や、たたんだお札を入れる投入口になります。硬貨やお札が入る十分な大きさにします。大きすぎると、入れたお金が簡単に出てしまいます。



割った竹は縁が鋭くて手を切りやすいので、ナイフで削ってなめらかにします。角も丸くしておけばもっといいでしょう。

出来上がったら、がんばってたくさん貯金をしましょう。貯まったお金を取り出すには、ナタなどで思い切りよく割ります。

注意：加工するのにいろいろな道具を使うので、その時にけがをしないように注意しましょう。

To Be Continued

**手作り遊び
PART 3**

に続く